

# UR都市機構



独立行政法人 都市再生機構  
千葉ニュータウン事業本部 事業部  
部長 佐々木 公陽 様



## WONDER GREEN PROJECT

### 「まちづくりかいぎしつ」のテーマ

- 【第1回】 住まいと街  
「本当のエコタウン・エコハウスとは」  
ゲスト：宿谷昌則氏  
(東京都市大学環境情報学部 教授)
- 【第2回】 アクセスと街  
「モビリティ・自動車・まち」  
ゲスト：石田東生氏  
(筑波大学 システム情報工学研究科 教授)
- 【第3回】 五感と街「感性と街」  
ゲスト：宮内博実氏  
(静岡文化芸術大学 デザイン学部長 教授)
- 【第4回】 子育てと街  
「子供をシェアに育てる」  
ゲスト：外山知徳氏  
(静岡大学 教育学部 名誉教授)
- 【第5回】 食育と街「持続可能なまちをつくるために“食”ができることは」  
ゲスト：浜内千波氏 (料理研究家)



まちづくりかいぎしつ



いには野地区の戸建て住宅 (印旛日本医大)

## ニュータウン開発にあたって 低炭素型ライフスタイル検討会を設立

独立行政法人 都市再生機構 (UR都市機構) 様は、千葉ニュータウン結いの丘まきのはらを舞台に21世紀における低炭素街づくりと、低炭素ライフスタイルを検証するプロジェクトチーム「WONDER GREEN PROJECT まちづくりかいぎしつ」を運営。その成果を生かして街づくりが行われ、2011年秋にまちびらきが行われます。



桜台地区の戸建て住宅 (千葉ニュータウン中央)



深草公園と集合住宅 (印西牧の原)

### 11の企業と有識者が コラボレーション

千葉ニュータウンは都心から約35km、成田空港から約20kmに位置し、首都圏に求められる宅地需要に対応するため、良好で計画的な住宅・事業用地を提供してまいりました。ここでは、「住む」「働く」「学ぶ」「憩う」のさまざまな機能が複合した総合的な都市づくりを進めるとともに、千葉県の中核都市形成を目指しています。そこに、現在では約90,684人※、約33,196世帯が暮らしています。

「千葉ニュータウン中央」の東に位置する「結いの丘まきのはら」の開発にあたっては、これまで培ってきた技術を生かすとともに、低炭素な暮らし、自然を愛し共生する暮らし、みんなが幸せを実感でき共有できる暮らしなど、新しいライフスタイルをさぐるためにUR都市機構が旗振り役となって、住宅会社、電力・ガス会社など11社に参加していただき「WONDER GREEN PROJECT」まちづくりかいぎしつ」を立ち上げました。低炭素で新しいライフスタイルを街づくりの視点から協議していく場として、2010年10月から11年2月まで5回開催。暮らしまわりの企業と有識者がひとつのテーブルに集まり、毎回テーマを決めて、より豊かな街とするためのコラボレーション検討会を行い、アウトプットはWebサイトで公開。その成果を街づくりに生かそうとしています。

### 「低炭素」+「安全・安心」が コンセプト

「結いの丘まきのはら」の街づくりコンセプトは「未来世代へ贈るまちづくり」とし、「地球にやさしい」「子供にやさしい」街づくりをテーマとしています。地球にやさしいという意味では、CO<sub>2</sub>排出量を住宅街区で50%、エリア全体では30%削減を目標とし、自動車利用を抑制するために、自転車専用道や駐輪場の整備を進めるとともに、CO<sub>2</sub>を吸収する樹木を増やすことを計画しました。

「結いの丘まきのはら」は豊かな自然が残っていたエリアで、北西部は手賀沼に続く谷戸筋(丘陵地の谷あいの低地)で動植物や昆虫が多様な生態系をつくりだしている場所です。街区には帯状に植栽帯を設け、手賀沼水系とつながることで街に自然を呼び込むように計画しました。また、電線の地中化により、災害時の電柱倒壊や電線切断を防ぐとともに、街の景観にも配慮しています。さらに、パッシブソーラー住宅の推奨や美しい街並みの良さを示したコンセプトブックを制作して、自主的に低炭素で美しいまちづくりができるように計画。各住戸には電気自動車給電用のコンセントを整備することを条件としました。「結いの丘まきのはら」は、環境省平成21年度の「低炭素地域づくり面的対策推進事業」のモデル地域として選定されており、これらの試みを多様な主体と推進しています。

※2011年3月末現在